

今、高知の底力を！

知事からの説明要約
高知県産業振興計画の5本柱

皆さまこんにちは。

YASU海援隊の皆さまにおかれましては、大変お忙しい中、この「対話と実行座談会」にご参加を賜りまして、本当にありがとうございます。

この「対話と実行座談会」、私が知事に就任させていただきました最初の年度には、34市町村を全て回らせていただきました。それぞれの地域でそれぞれの実状を勉強させていただくことが1年目の主旨で、目的でした。

昨年と今年は、よりテーマを絞ってお話を伺いさせていただき、今後の政策展開にピンポイントで生かしていけるようなことがないか、勉強させていただきたいということで、この座談会を開催させていただきました。

もう一つには、高校生との対話がありまして、若い人に県政や高知のさまざまなことに関心を持ってもらいたいという思いで実施しているものがあります。

本日は、特に観光の関係、さらには漁業資源をつまく生かした取り組み、YASU海援隊の皆さまに、いろいろ勉強させていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひします。

それでは、高知県の産業振興計画について説明させていただきます。昨年は実行元年としてこの計画を執行し、今年はバージョン2ということで改定をしたものになります。その改定のポイントを簡単に話をさせていただきます。この産業振興計画全体として何をしようとしているか、特に今年はどこに力を入れようとしているかということが5つの改定の柱になります。

地産外商戦略の加速化



外に売って、外から稼いでくる、もしくは観光客の皆さんに高知県でお金を使っていただく、いずれも地産外商ですが、これをもう一段階戦略として加速していけないかということなんです。

東京で、首都圏で設けているアンテナショップなどもそのための取り組みの一つです。アンテナショップは物販とかレストランで儲けるというよりは、プロ向けのバイヤーさんとか、レストランのシェフとかプロの方々向けの外商活動の拠点というイメージが非常に強い施設だと思っています。また、そこでテストマーケティングした情報を産地にフィードバックし、産地の力

を強化していく役目も負っています。

今、アンテナショップの運営もしている地産外商公社が、外商活動ということで展示商談会や県産品フェアなどさまざまな外商の機会を作り出すべく努力を重ねています。その機会は確実に増えていますが、理由の大きな一つが、やはり龍馬ブームだと思っています。それが一定衰えた後の来年以降どうしていくかということが非常に大きな課題です。

今の間にいかに本物の人間関係、商売の関係というものを作りあげていけるかということが非常に大事だと思っています。今こそ緊張感を持って来年以降につながる取り組みを進めていかねばならないと思っています。

ものづくりの地産地消の促進



残念ながら高知県は、県内だけで「ものづくり」が完結しないという状況がずっと続いてきています。できる限り、県内同士で「ものづくり」が完結するようにお互い情報を流し合ったり、バーチャルな商談会をやったり、そういう取り組みを進めています。

資源で、新しい観光イベントをするよいうなことは絶対にすべきではないということなんです。ただ、龍馬を中心に据えながらも、今年より裾野を広く対応していくということは是非とも重要だと思っています。来年に向けてどういうことをすべきかということで、「ポスト龍馬博推進委員会」を設け、県外の旅行会社など専門家の方々の視点で、ご検討いただけてまいりました。

多くの大河ドラマの主人公と違って坂本龍馬の場合は、元々多くの方に人気があって、それが今回の龍馬伝によって益々有名になったと考へるべきで、龍馬伝を観て高知に来たいと思っている潜在顧客は、まだ10分の1ぐらいしか来ていないということです。高知が他の県と比べて圧倒的な強みは、龍馬の故郷だということ、「龍馬ふるさと博」はどうかということが第一の大きな理由です。

地域の観光資源に磨きを！



そしてもう一つやることとして、この大きな理由が、高知県の東部、中央部、西部、それぞれの地域で1泊以上できる観光地づくりを進めていくということです。

恐らくこちらが本当の意味で高知県観光の底上げを目指していくものになっていくと思っています。ご存知のとおり道後温泉から高知



地域の取り組みのステップアップ推進

まだ初期段階の取り組みから、ご支援、バックアップをさせていただきます。いざいざ地域アクションプランを目指していただけるよう、そういう取り組みを今回追加をいたしました。

人材の育成確保



様々な人材育成関係の施策を講ずることとしています。

ポスト「龍馬博」の推進



今、特に力を入れていこうとしている点であり、取り組むべき大きな理由が2つあります。

来年は龍馬ふるさと博

現在、土佐・龍馬であい博は、9月に4つのパビリオン合計の年間動員目標を上回り、幸いにして大変好評をいただいています。

これだけ多くの人の心を捉えている坂本龍馬を捨てて、来年度新しい観光市内に入って1泊して、高松のほうへ抜けていく、タッチ&ゴーの様な観光をされる場合が非常に多いわけで、少しでも泊数を稼ぐ観光地づくりをしたいと思っています。多くの皆さまが実感されていると思いますが、高知県はいろいろな所に1泊、2泊してもらえただけの観光資源を持っています。今やっておりますのは、各地の観光資源がいろいろな観光客を受け入れられるような形で、できる限りの条件整備をしていただきつつ、私たちの方でモデルコースを組んで、旅行会社に売り込みをかけていきたいと考えています。

YASU海援隊の皆さまも優に2泊の観光モデルコースをお作りになられて、売り込みもかけておられると伺っています。

皆さまには、釈迦に説法になってしまつて大変恐縮ですが、残念ながら高知県の観光資源の中には素晴らしいものを持っていないから、なかなか旅行商品になりにくい。観光地の磨き上げを各地域で徹底してやっていくことで、旅行会社がこの組み合わせたいと思つてところを1力所でも増やし、高知県での滞在時間を長くする。

これで、本当の意味での高知としての実力を築き上げていくことだと思っています。この後の意見交換会で、いろいろな形でご教示を賜りたいと思いますので、よろしくお願ひ申し上げます。



yasu 海援隊

をご紹介します

香南の海から 教育・観光・地域の活性化に臨む ■YASU海援隊代表 栄枝俊一さん

■香南市サイクリングターミナル ☎55-3196

塾の体験合宿がはじめ

平成17年に奈良県の進学塾から、「日ごろの学習だけではなく、塾生の『生きる力』を育むため、高知で『体験学習』がしたい」という申し出があり、旧夜須町の主導でこの合宿を受け入れたのが活動のきっかけ。以来、この塾は、毎年香南市を訪れるようになりました。受け入れも回を重ね、体験メニューを提供している各団体がスケジュールを組むなど、徐々に自分たちで受け入れができるようになりました。そして、子どもから大人まで幅広い年代の受け入れを目指そうと、平成21年に正式に「YASU海援隊」を発足しました。

隊員のそれぞれの活動が結集！

「2泊3日の体験メニューは海のほか、木工クラフトやまち歩き、天体観測などを行っています。まだまだ市内には体験できる素材がたくさんあります。今後は山間部の体験メニューも増やしたい」と代表の栄枝さん。海援隊発足後は、観光ガイド研修やセミナーへの参加など、受け入れ体制を充実させるとともに、旅行会社と協力し、体験観光を希望する学校や法人などの団体への企画旅行の売り込みなどにも積極的に取り組んでいます。

「香南市の自然と歴史、食とおもてなしの心で、子どもたちに喜んでもらえることがうれしい！新しい発見もあり、やりがいがあります」と隊員の皆さん。

YASU海援隊は、香南市を舞台に、教育・観光・地域の活性化に臨むと「ふれない思い」を隊員たちが共有しています。遊んで終わる観光ではないという隊員たちの自負に期待が寄せられています。